

一貫教育

新篠津の子どもたちの明るい15の春を目指して

～ 新篠津小中学校 一貫教育推進員より ～

小中学校の先生たちが授業研究交流

10月27日(水)に中学校で理科担当の岩田誠先生の「研究授業」が行われました。「研究授業」というのは、授業の流れを書いた指導案を先生たちで検討し、授業を実際に行って、課題や成果を話し合い、授業力を高めるために行っているものです。



小学校からは、上田充士校長、酒井夕委先生、今井貴史先生が授業参観しました。(今井先生は、事後の話し合いも参加しました。)



また、11月2日(火)には、小学校で3～6年生の国語を担当している吉成拓也先生の「研究授業」が行われ、中学校から国語担当の石崎博子先生、英語担当の大畑洋平先生、数学・理科担当の岩田誠先生が参観しました。(岩田先生は、事後の話し合いにも参加しました。)今後の授業に活かし、より効果的な授業となるよう、いろいろな意見が交換されました。

これからも、よりよい授業を子どもたちに提供するために、小中で協力しながら9年間の授業について更に交流を図れたらいいなと思います。

英語の乗り入れ授業～大畑洋平先生、リチャード・バトソン先生

10月22日から11月7日まで、7回の外国語の乗り入れ授業が6年生で行われました。中学校の英語担当の大畑洋平先生が授業を進め、ALTのリチャード・バトソン先生、そして、小学校のALTのトーマス・パトリック先生も教室にいて補助するという豪華な授業となりました。



中学校の先生たちが小学校6年生に授業を行うことで、子どもたちの「中学校進学に対する不安感」は少なくなります。中学校の先生たちも、子どもたちが安心して授業をうけることができるよう様々な工夫をして授業をしていました。子どもたちも一生けん命、考えたり、発音したりして、楽しそうに学習していました。



(文責 中川)

タブレットの色々な使い方を紹介

小中学校にタブレットが導入されてから10カ月近くになろうとしています。小学校でも、子どもたちが操作に慣れ、どの学年でも活用している場面が見られます。その中から一部紹介します。

○1年生

算数の色板を使った図形の学習では、色板で作った自分の作品をタブレットで撮影して、先生に転送しました。それを先生が大きく映してみんなで交流しました。1年生がタブレットの「ロイロノート」を使いこなしているのに驚きました。



○2年生

今、算数で九九の暗唱をやっています。色々な先生の所に「上がり九九」「下り九九」「ランダムな九九」の挑戦に行き、合格するとその先生から合格を証明するサインをもらっています。



○3年生

体育の跳び箱の授業では、自分の跳び方を友達と互いに動画に撮り合い、自分で見て課題を見つけ、解決するために活用していました。



○4年生

国語の学習で、ばらばらになったセンテンスを先生が子どもたちのタブレットに送信し、どちらの段落に入るか考えて、タブレットを操作して、分ける学習をしていました。



○5年生

算数の時間に自分の考えを書いたノートをタブレットで撮影し、先生に送信して、みんなで見ながら話し合い、問題を解くための自分の考えを交流しました。



ここでは、一例を掲載しましたが、この使い方は、表示した学年だけで行われているわけではなく、どの学年も色々な使い方ができるようになってきています。(6年生については、これまで紹介してきているので省略しました。)

タブレットは、あくまで学習を効率化したり、子どもたちの活動を促したりする学習のためのツールですが、効果的な実践が積み上げられてきています。先生たちの活用アイデアや、すぐに使いこなしてしまう子どもたちの様子に感心しています。これからの更なる実践が楽しみです。

(文責 中川)